

大垣市環境市民会議 NEWS(No.16)

暦は師走も半ばを過ぎましたが、天候は暦に追いついていないようです。暖かいのはありがたいとは言うもののやはり「今年は変ですね・・・」が挨拶の常套句になっているように感じます。温暖化が確実に進んでいることを肌で感じた一年ではなかったでしょうか。今回は、第五回市民環境フェスティバル開催のご報告と、第2回シンクタンクの議事録を掲載します。フェスティバルは会員のみなさんのご協力のもと、無事開催できました。反省を今後活かしてさらなる挑戦を試みたいと思います。シンクタンク議事録では、温暖化に関する情報も出ておりますので是非お読みください。

皆さん、よき新年をお迎えください。

第五回 市民環境フェスティバル

11月27日(土)・28日(日)(於)大垣城ホール

来場者 両日合わせて4,000名

スタッフの皆さん、お疲れさまでした!!

○ 市民環境賞表彰者

個人部門 松岡幸一

団体部門 加賀野名水保存会・大垣青年クラブ・小野ホテル保護育成会

事業者部門 日本合成化学工業生産技術本部大垣工場

○ 展示企業団体-46 学習展示発表-4校

児童生徒作品展示-264点 リサイクルファッション作品展示-11点

○ 環境鍋・マイバック作成・体験学習・環境クイズラリー・ハイブリット、LPガス仕様等の車の展示と試乗・岐阜大学フィルム型太陽電池作成実演・クリーンエネルギー、新エネルギー関連展示・「考えてみよう」コーナー(エコライフと食)・お豆腐など販売コーナー



部会活動報告

○「レジ袋ないない」-

市民環境フェスティバル会場賛同署名数 11/27(土)53名・28日(日)65名・12月「ないないデー」
12/11(土)カネスエ昼飯店賛同署名 36名

○「水門川いきいき」-

市民環境フェスティバル展示・12/16(木)定例プロジェクト会議

○環境まるごと探検隊-

12/4(土)曾根城周辺【冬の野鳥観察会】

○「人材バンク登録」からのお願い

会員の皆さんの人材バンク登録をお願いします。17年度からの小中学校総合学習などへの講師派遣を目指します。登録会員の皆さんには、ファシリテーション講習会を企画します。環境市民会議からの講師派遣としてより充実したプログラムをたくさん持てるようプロジェクトを進めますので、是非ご参加ご協力ください。

代表者会議報告

12月14日(火)19:00～(於)情報工房会議室3

議題-《市民環境フェスティバル反省》

開催時期は他の行事との重複が多かったので再考を要する。会場のレイアウトや動線について、企業展示や最奥のブースへの人の流れを検討すること。来年度予算減が予想される。会場設営経費等削減するために展示の方法を根本的に検討すること。

第六回市民環境フェスティバル開催予定～

会場 大垣城ホール 日時 平成18年3月11日(土)・12日(日)～みんなで知恵をしぼって、お金をかけずより市民にアピールできるフェスティバルを目指しましょう。

《会員会費制について》

別紙会費制についてのアンケートの説明をお読みください。

《平成16年度 第2回全員協議会》

平成17年3月19日(土) 13:30～開催予定

スイトピアセンター学習館 学習室2

<議案>

会員会費制と組織固め、これに伴う規約改正・各部会、及びプロジェクトの16年度活動報告と17年度計画など

<次回代表者会議>

平成17年2月17日(木)19:00～情報工房会議室3

第2回シンクタンク議事録

日時 平成16年10月26日(火)15:00～17:30

参加者 森孝之・小林良二・大橋妙子・佐々木愛子(敬称略)事務局 窪田・谷口・青井・奥田

議事内容(発言者名 略)

○台風23号による大垣市内の被害について、またここから学ぶこと

浸水地域-荒崎・林町・八島・静里・笠木・寺内の各地区-床上・床下合わせて700戸の被害

- ・ この地域は元々、水害で悩まされてきた地域で、輪中という工夫をして人命や財産を守ってきた。今回の台風による被害は、近年あまりなかったこと(雨の降り方が短時間、集中的であったので、水路から急激にあふれて道路が冠水する被害が多かった)で、対策や対応は十分であったとは言えない。(例 荒崎地区の現地対策本部から、市庁舎の本部対策に情報が入ってこない)
- ・ 市の財政事情から考えても、市民が自分で自分の命や財産を守ろうとする意識が求められる。
- ・ 地域的な差異もあるので、市全体でやろうとすると難しいことも多い。地域でボランティア的に取り組んだり、市民活動として進めたり、参加したりすることで自動的に自衛できるシステムの構築などが望ましい。
- ・ 大垣の市民は行政に頼りすぎている、甘えすぎの傾向が強い。自分たちでやろうとする意識を育てることが大切。
- ・ 防災ではなく減災の考え方をもち臨まなければならない。
- ・ ソフト面の対応として、地域力を育てることが必要で、そのためには普段のコミュニケーションが重要である。災害時にはやはり正確な情報を迅速に流すことが求められる。既に、大垣市には水害ハザードマップが作成され、全戸配布されているので、これを素材として地域で学習することで、地域コミュニケーションを進めるとよい。
- ・ ハード面では、個々の住宅、個人の自助努力が必要。たとえば、一階は駐車場にして住まいとしては使わない、各戸の雨どいの下にタンクを設置して私設のダムを造るといったことが考えられるので、こういうことに対して補助金制度を作るといった対応を合わせて進めるとよい。
- ・ 公的な建物でも、貯水設備を設置して利水することが必要。
- ・ 東京でも既に、天災や濁水、洪水に備えて雨水を貯水する施設が整備されている。
- ・ この地域は、昔から輪中地域として水との縁は深い。『水』について、これをうまく治める知恵や知識、工夫を通して、市を他に対してアピールすることも一案だろう。
- ・ 大垣市のハザードマップはよくできている。これを丁寧に見ると、現状が厳しいことがよくわかる。市民はこれをきちんと見て、緊急時に正しい対応ができるよう普段から心がけたい。
- ・ 行政が市民に対して、自助努力を求めるのは難しい。環境市民会議は行政も入った NPO 組織なので、こういう組織から市民に訴えていくのが効果もあげやすい。
- ・ 市民の自覚を高めるために、行政は奨励金や補助金制度を進めることが必要。
- ・ 今年の天候の異常、台風被害は、温暖化が進んでいる現状では今年に限ることではなく、今後も毎年起こる。これを逆に好機として、情報を発信し続け、意識や関心のある人を増やしていくことが大切。
- ・ 警告を出しておくことはやはり大切で、これが大きな災害を生まない方法である。
- ・ 自治体や学区、町内で自衛できるアイデアを出すとよいし、そういう人たちや地域が何らかの形で報われるシステムというのも考えたい。
- ・ 大垣は、地域としてまとまる力は強いが、これを上手にファシリテーションすることが難しい。

- ・ 行政から少し離れた立場で、第三者的に発言できる場所として、環境市民会議は良いところである。
- ・ 中越地震のような大規模な災害が起きたときのために、行政はしっかりシュミレーションしておくことが重要。情報がきちんと入ってくるように、たとえば今回の中越の場合も、電話が携帯電話も含めてつながらない、つながりにくいということが起きた。通信手段を確保できることは重要。また、各地域、地区から情報を正しく、速やかに伝えられるような、システムを作っておくことも考えなければならない。

○ゴミ減量の課題について

- ・ シール製の導入でいったん減少したが、現在は再び増加していて、特に事業系のゴミの増加が深刻。
- ・ 事業者はゴミを減らす努力を積極的に進めるべきで、ゼロエミッションに向けた努力が必要。
- ・ 一般の家庭ごみの減量の方策として、ゴミ袋の記名制を提案したいが……プライバシーの問題があって難しいのでは？
- ・ 有料制という方法もあるが、これもその当座は減少するがしばらくするとまた元に戻る事が予測される。
- ・ 他の自治体と横並びで比較すると、大垣市の一般家庭ゴミの量はまあまあと言える。事業系のゴミの減量努力が必要。
- ・ 全国を見てみて、ゴミ焼却施設で発電できているのは 14 パーセントしかない。これで 127 万キロワットの発電をしていて、原発一基分に当たる。
- ・ 大垣のクリーンセンターの施設は管理や運転がうまく評価できる。
- ・ 浄化センターの排水で発電するという方法もある。

○岐阜県地球温暖化防止推進計画の紹介

- ・ 岐阜県を圏域別に見た場合、一人当たりの二酸化炭素の排出量が最も多いのは西濃圏域である。
- ・ 西濃圏域の特性と重点対策-圏域の特性として、名神高速道路や国道等幹線道路、東海道新幹線、東海道本線等が走る交通の要所であること、製造業の比重が大きいこと、平野部は県下有数の穀倉地帯であること、森林率は 69.7 パーセント。エネルギー利用実態は、夏季の冷房利用率が岐阜圏域について 高い。(88.9 パーセント)一人当たりの二酸化炭素の排出量は県下最大(飛騨圏域の 1.4 倍)。
- ・ 重点対策は、産業部門-工場や作業所での省エネ・省エネ機器への設備投資/民生部門(家庭系)-冷暖房等の家電製品の省エネ・グリーン購入の促進/民生部門(業務系)-オフィスや事業所での省エネ/運輸部門-自転車や公共交通機関の利用・輸配送の効率化と合理化/廃棄物部門-使い捨てラフス タイルの見直し・産業廃棄物の有効利用

○地球環境研究センターニュース

- ・ Vol.15No.6 から～地球シミュレーターによる最新の地球温暖化予測計算の紹介～世界最大規模のスーパーコンピューター 地球シミュレーターが、大気 100km 程度、海洋 20km 程度の世

界最高解像度(細かさ)の地球温暖化計算に成功

- ・ 計算の概要-1900～2000年の観測データー 2001～2100年はIPCC(気候変動に関する政府間パネル)のシナリオのうちの二つ についての計算【シナリオは、世界が経済重視で国際化が進むと仮定したシナリオ-「A1B」(2100年の二酸化炭素濃度が720ppm)と、環境重視で国際化が進むと過程したシナリオ-「B1」(2100年の二酸化炭素濃度が550ppm)】
- ・ 2071年～2100年で平均した全地球平均気温は、1971～2000年平均に比較して、B1で3.0°C、A1Bで4.0°C上昇、降水量は、B1で5.2%、Aで6.4%増加する。
- ・ 2071～2100年の日本の夏の平均気温は、1971～2000年平均に比較して、B1で3.0°C、A1Bで4.4°C上昇、降水量はB1で17%、A1Bで19%増加すると予測された。真夏日の日数、豪雨の頻度、共に平均的に上昇、増加すると見られる。

○温暖化の影響が農業に……(日本農業新聞の紹介)

暖かすぎて花が咲かない、害虫が増えるなど、地球温暖化が原因と見られる具体的な影響が九州各地から報告されている。生産の減少、品質の低下、対策のための経費増などが農家の経営を圧迫している。

議事録作成 事務局 奥田陽子

第3回 12月14日(火) 15:00～17:30

第4回 1月14日(金) 15:00～17:30 開催予定

事務局からのお知らせとお願い

会員会費制導入についてのアンケート調査用紙と新年会企画ご案内を同封します。お手数ですが期日までに事務局へご返送(郵送・FAX・直接ご持参のいずれでも可)ください。